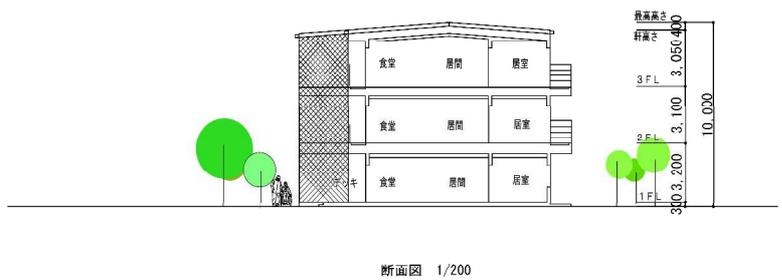
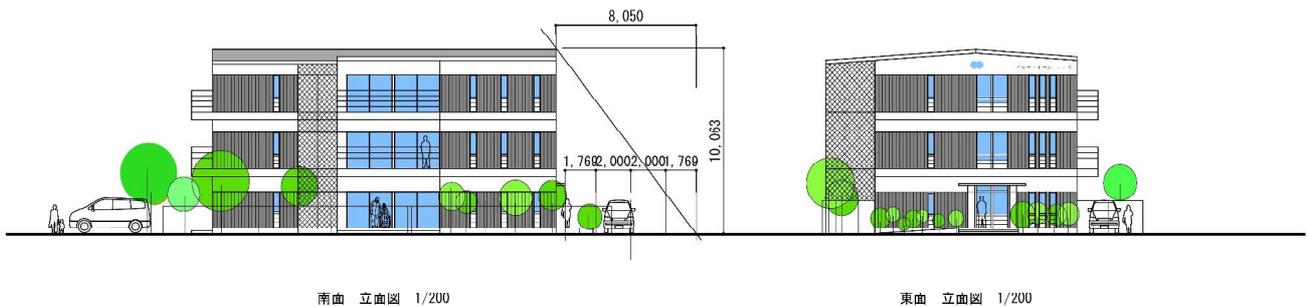
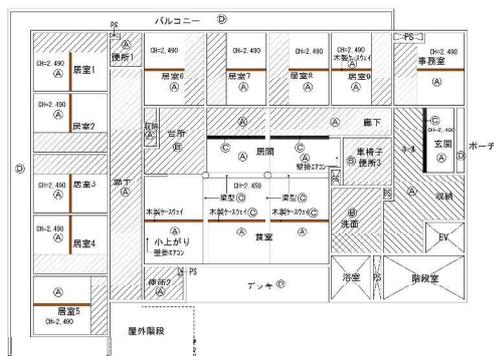


木造耐火建築の課題.....グループホームでの試み



■郷愁を思い起こす焼杉黒板塀をイメージした木造耐火建築グループホーム計画2016

株式会社 エーアンドシー設計



天井伏せに設計ポイントがある。

昨年計画がスタートした大阪市内に建つ木造3階建て耐火構造3ユニット27室のグループホームで、あまりの進入路の狭さから小型車で運べる木造を提案した。

木造建築の多様性が求められている最中、事務所で初めての耐火設計案件で、年初、日本木造住宅産業協会の講習を受け耐火仕様の内容を学んだ。予想以上に「ハード」な内容だが、ポイントは「いかに設備を組み込むか」と理解した。簡単に言うと、耐火構造になる壁、天井、床の部分に換気扇や照明、放送、自火報、スプリンクラー、コンセント等の多くの機器が殆んど埋め込めないことである。

今回の設計ポイントは、予め耐火構造とならない壁、天井をプランに散りばめ、これらの部分に設備機器をレイアウトした。元々階高を抑えた建物の為、天井高さに変化のある室内空間を求めて部分的に2重天井を作る事でここに設備機器を埋込み、高い天井部分には配管配線用に特注の木製のケースウェイを棟木風にデザインしている。壁は更に悩ましく、柱を含む壁は全て耐火構造になる事から、柱や筋交いを含まない壁を造り分ける事で、これらの部分にコンセントや弱電機器などを組み込んでいます。少しの工夫だが次の耐火木造にも取り入れる予定だ。